

言語療法学科（新カリキュラム）

【基礎分野】

■ 学習・教育目標 ■

社会人としての基本となる「ホスピタリティー論」を3年間の軸としてとらえ、かつチーム医療の一員として幅広い視野で活躍できる科目を設けています。

また、「統計学」「情報工学」「文献研究法」などを学ぶことで、医療に携わる者として必要な研究姿勢とプレゼンテーション能力の獲得を目指しています。■

科目群の学習・教育目標		第1学年		第2学年		第3学年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
科学的思考の基礎	科学的・論理的思考力を育て、人間性を磨き、自由で主体的な判断と行動する能力を培う。 生命倫理、人の尊厳について幅広く理解する。 国際化および情報化社会に対応できる能力を培う。	心理学概論					
		日本語表現法					
		芸術論					
				文献研究法			
					カウンセリング論		
		文化人類学					
		教育学					
		福祉援助論					
		生物学					
		統計学					
人間と生活	患者・利用者等との良好な人間関係の構築を目的に、人間関係論、コミュニケーション論等を学ぶ。	情報工学					
		物理学					
社会理解	言語聴覚療法の基礎となる知識・技能及び態度を習得する。	保健体育1	英語1	保健体育2	英語2		
			教養セミナー				
		キャリア教育1 ホスピタリティー論1		キャリア教育2 ホスピタリティー論2		ホスピタリティー論3	
言語聴覚療法の基礎		医療福祉と社会問題					
		レクリエーション療法					
			栄養学				
				音楽療法			
				関係法規			
				手話			
						</	

【専門基礎分野】

■ 学習・教育目標 ■

健康状態の心身のつくりやはたきをも十分に理解し、その上で病期や障害の成り立ちを学ぶ体系的な科目を設定しています。またコミュニケーションは心によって形成され、心の影響を大きく受けます。

数多くの心理学系の科目や言語学系の科目から「言葉」「コミュニケーション」を多角的に捉えています。■

科目群の学習・教育目標		第1学年		第2学年		第3学年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
人体のしくみ・ 疾病と治療	言語聴覚療法に関わる人体の構造と機能の知識を系統的に学ぶ。言語聴覚療法に必要な臨床医学、臨床歯科医学、栄養学、薬理学等の知識を学び、言語聴覚領域の疾患との関連を系統的に理解する。音声・言語・聴覚医学（神経系の構造、機能及び病態を含む。）に関する言語聴覚療法の基礎知識を系統的に学ぶ。医用画像の評価や救急救命の基礎的知識について学ぶ。	医学総論					
		解剖学A					
		解剖学B					
		聴覚系の解剖生理			神経系の解剖生理		
		生理学			生理学実習		
		病理学			生理学実習		臨床運動学
			内科学				
			精神医学			小児科	
			リハビリテーション概論				
			耳鼻咽喉科学				
			臨床神経学				
							形成外科学
			臨床解剖学（口腔内科学）				
					画像診断学		
					聴覚リハビリテーション		脳神経外科
心の働き	言語聴覚障害及び言語聴覚療法について学習するうえで基礎となる心の働きに関する知識、技能、態度を修得する。				臨床心理学		
					臨床心理検査法		
			生涯発達心理学				
			学習認知心理学			心理測定法	
言語と コミュニケーション	言語聴覚療法に必要な言語・コミュニケーションに関する知識を学ぶ。	言語学					
			音声学 2				
			音響学				
社会保障・ 教育とリハビリ テーション	言語聴覚療法の基礎となる社会福祉、リハビリテーション、学校教育に関する知識を学ぶ。		聴覚心理学			言語発達学	
		リハビリテーション概論	社会保障制度			リハビリテーション概論	

【専門分野】

■ 学習・教育目標 ■

コミュニケーションの障害において失語・高次脳機能障害系、言語発達障害系、発声発語障害の障害・嚥下障害系、聴覚障害系の各側面から、原因となる「疾患の成り立ち」、「評価・診断」、

「言語治療」と系統的に学び、機能回復、活動レベルの向上、参加支援などに向けた言語聴覚士の専門業務についての理論・知識・技能を修める。■

科目群の学習・教育目標		第1学年		第2学年		第3学年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害の特性と種類、言語聴覚士の役割、専門性及び言語聴覚療法の基本概念を修得する。	言語聴覚障害概論				言語聴覚障害総論	
							言語聴覚障害学ミナナ
言語聴覚療法管理学	言語聴覚療法を支えるシステムと制度を理解し、言語聴覚療法の質及び業務・情報・安全等に関する管理について学ぶとともに職業倫理を遵守する態度を養う。					言語聴覚療法管理学	
			リスク管理学				
失語・高次脳機能障害学	失語及び高次脳機能障害、言語発達障害、発声発語障害、摂食嚥下障害、聴覚障害、平衡機能障害並びに関連障害に関する知識と言語聴覚療法の評価・訓練・指導・助言、その他の援助に関する知識・技能・態度を修得する。画像情報による評価、嚥食等の吸引についても修得する。		失語症 1	失語症 2		失語症 3	
				高次脳機能障害 1		高次脳機能障害 2	
			言語発達障害学 1	言語発達障害学 2		言語発達障害学 3	
発声発語・摂食嚥下障害学	発声・助言、その他の援助に関する知識・技能・態度を修得する。画像情報による評価、嚥食等の吸引についても修得する。				脳性麻痺		重複障害
				音声障害			
				運動器性構音障害			
聴覚障害学	聴覚障害の評価・訓練・指導・助言、その他の援助に関する知識・技能・態度を修得する。画像情報による評価、嚥食等の吸引についても修得する。				機能性構音障害		
					器質性構音障害		
						嚥下障害 1	嚥下障害 2
地域言語聴覚療法	障害児・者、高齢者の地域における生活を支援するための諸制度や自立支援、就労支援、地域包括ケアシステム及び多職種連携など言語聴覚士に必要な知識・技能並びに支援のあり方について修得する。						吃音
			小児聴覚障害 1		小児聴覚障害 2		
			成人聴覚障害 1			成人聴覚障害 2	
臨床実習	社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力・実践能力を身に付ける。言語聴覚士の役割・職務を理解し、対象児・者の特徴と問題を把握して、言語聴覚療法の評価・訓練・指導・支援の技能を養う。また、チームの一員として連携の方法を修得し、言語聴覚士としての基礎的な実践能力を培う。					補聴器・人工内耳	視覚聴覚二重障害
			臨床実習 1		臨床実習 2		臨床実習 3